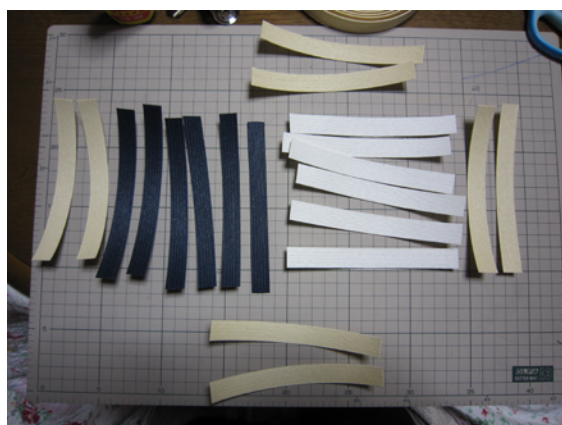
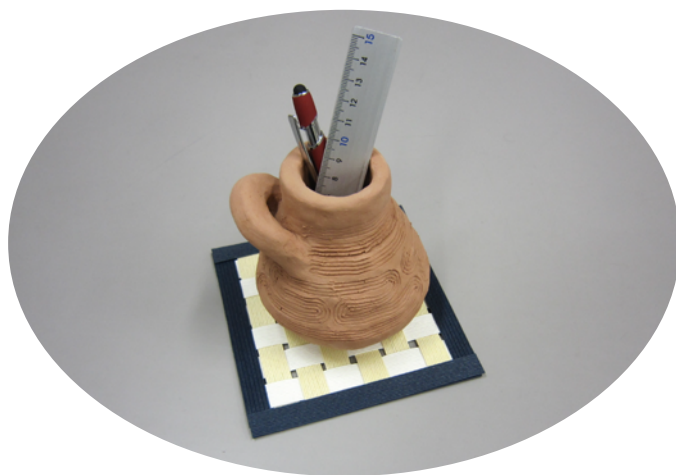


あじろ あ
網代編み
コースターづくり
(初級編)

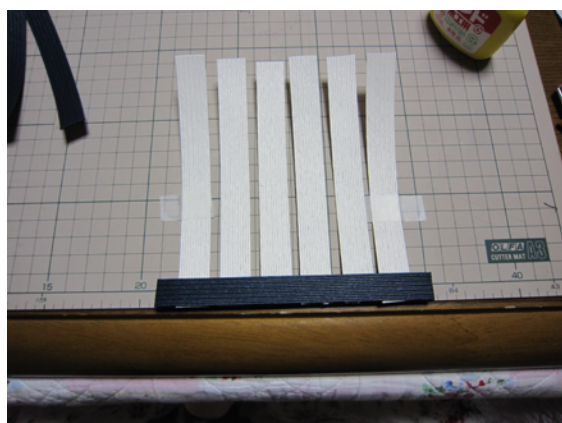
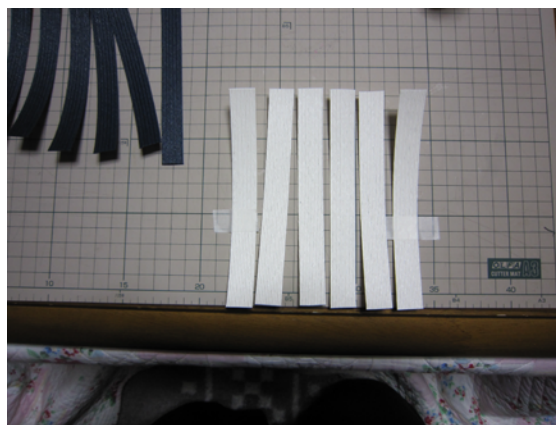
必要なもの

- ・クラフトバンド等の紙製バンド
（メーカーにより名称は様々です） 3色
- ・木工ボンド
- ・はさみ
- ・メガネクリップ（大）4つ または洗濯バサミ
- ・カッターマット

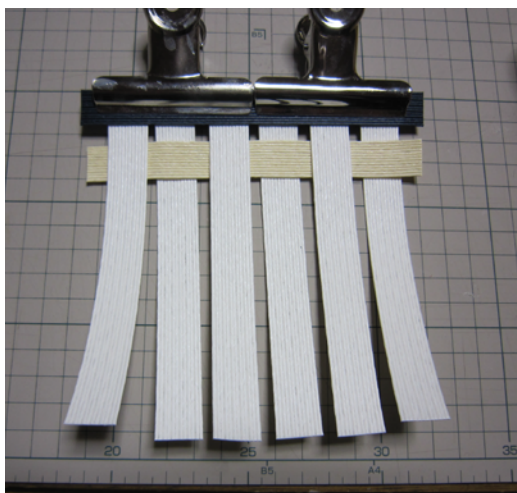


長さ 14cmのバンドを必要数用意します。
縦6本、横6本、縁用8本で、縁用を濃い色
にするとよいでしょう。（写真は紺を縦用として
用意していたのを予定変更しています）

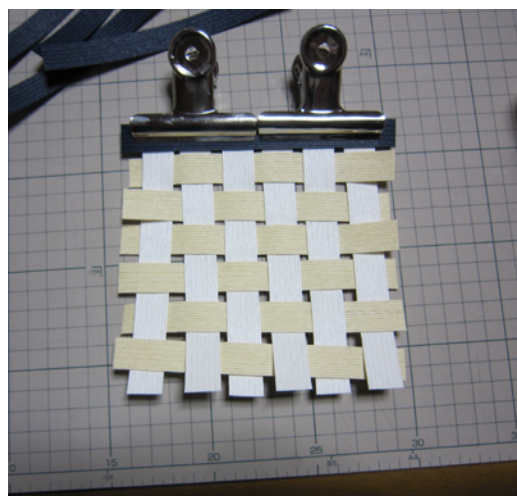
縦用の紐6本を、幅 11cmの範囲に均等
にならべます。両端をマスキングテープで
固定すると安定して作業できます。（写真
は 12cmに離しているためちょっと失敗して
います）



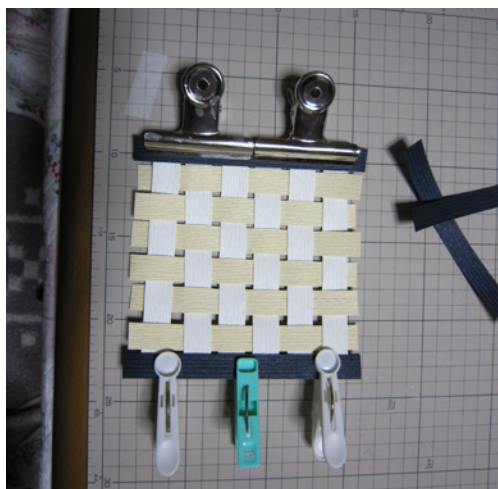
縁用のバンドを裏表に2枚貼ります。このと
き方眼のあるカッターマットなどで直角を確認
するときれいに仕上がります。



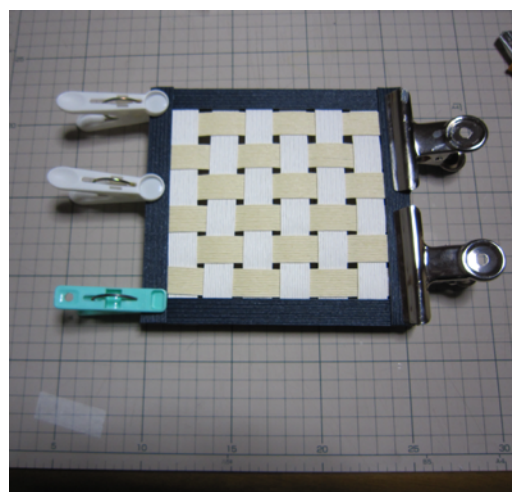
横用のバンドを編み込んでいきます。



互い違いになるよう6本を編み込みます。



先端に縁用のバンドを裏表で挟むように接着します。



ある程度乾いたら、縦軸の縁を接着します。乾いたら完成です。

網代編み

細長い材料を編んだり、組んだりして作られたカゴなどを「編組製品」といいます。

編組製品の代表的なものに、タテヨコまたはナナメに材料を編む「網代編み」という方法があります。

遺跡の発掘では、およそ 7000 年前（縄文時代はじめ）から網代編みのカゴがあったことが分っています。網代編みの方法は縄文時代から現在まで受け継がれてきました。

もちろん、弥生時代の唐古・鍵遺跡にも網代編みで作ったものがありました。木の実などの食べ物を入れるカゴや、地面にしく敷物など、生活の役に立っていたことでしょう。



唐古・鍵遺跡出土 窓枠？

植物を編んだものを棒材で挟み込んで枠状にしたものです。およそ 95 c m × 35 c m の大きさです。